

1 松尾頭地区の調査成果について

調査課題

「首長層の居住域」としての一面が強調される松尾頭地区において、**大型竪穴住居跡**や**大型掘立柱建物跡**の評価、それらと**居住単位との関係**を明らかにするなど、遺跡全体の中での位置づけを多角的に検討する。

平成19年度の調査目的（7区）

- （1）弥生時代後期後葉の大型竪穴住居群の広がりを把握
- （2）大型掘立柱建物跡（第53掘立柱建物跡）に関連する施設の把握
- （3）丘陵頂上部及び斜面部の土地利用の把握

平成20年度の調査目的（7・8区）

- （1）大型竪穴住居跡、大型掘立柱建物跡の分布域の確認、内容の把握
- （2）3区北側丘陵南斜面の内容の把握
- （3）第52溝状遺構の機能、周辺遺構との関連性の把握

平成21年度の調査目的（北東丘陵、9区）

- （1）窪地1（S I 1 1 5）の内容の把握
- （2）北東側丘陵部分における遺構分布の確認
- （3）3区から小真石清水地区にかけての遺構分布の確認

調査成果

（1）松尾頭地区の集落の変遷

期【中期後葉～後期前葉】

- ・中期後葉から集落が形成。後期前葉には1区で竪穴住居跡が増加。

期【後期中葉】

- ・竪穴住居跡が増加。3～6区に竪穴住居跡が分布するようになる。
- ・3区北側の南側斜面では**大規模な段**が造成され、そこに竪穴住居跡、溝状遺構が分布。

期【後期後葉】

- ・竪穴住居跡が増加。松尾頭地区全体に竪穴住居跡が分布。
- ・3区北側で、大型竪穴住居跡がまとまって分布。また、**大型掘立柱建物跡**（S B 4 1）

が分布。

- ・鍛冶関連の竪穴住居跡（S I 3 9）が大型竪穴住居跡の付近に分布。
- ・大型竪穴住居跡（S I 4 5）から破鏡が出土。

期【終末期前半】

- ・松尾頭地区全体で竪穴住居数が減少。1区では竪穴住居跡が分布しない。

期【終末期後半】

- ・1区に墳丘墓がつくられる。
- ・1区以外の地区で竪穴住居数が増加。
- ・7区、北東側の丘陵で床面積が50㎡を超える大型竪穴住居跡が分布（S I 1 0 2、1 1 9）。

(2) 松尾頭地区の集落構造

- ・住居群は1から4棟程度の竪穴住居跡で構成。
- ・住居群は1から2型式の比較的短期のもの、3型式以上の比較的長期のものがある。
- ・比較的長期の住居群は、中期後葉のA群、後期中葉のE群とF群の住居群。
- ・大型竪穴住居跡が分布する期間は1型式の短期間であるが、2型式以上分布が認められる住居群は、後期後葉のE、F群。
- ・鉄器は後期後葉のF、G群で多く出土。

表1 各住居群の状況

		- 1	- 2	- 3	- 1	- 2
1区	A群：1	A群：5 B群：2	A群：5（2） B群：1	A群：1 B群：4		墳丘墓
2～9区			C群：1 D群：5 E群：1	C群：1 D群：1（1） E群：4（2、1） F群：8（2、2） G群：1（1）	A群：2（1） B群：3（1）	A群：1（1） B群：3（1） C群：2（1） D群：1 E群：3
	B群：2		F群：2（1）	H群：5（1）	C群：1	F群：6（1） G群：1
小真石清水				I群：4 J群：3（1）	D群：1	H群：1 I群：6（2）
合計	3	7	15（3）	32（6、5）	7（2）	24（2、1、3）

時期の特定できるもののみを抽出。（ ）内の青は床面積が44㎡、赤は29㎡、緑は24㎡を超えるもの。

表2 各住居群における鉄器出土状況

		- 1	- 2	- 3	- 1	- 2
1区	A群：0	A群：0 B群：0	A群：0 B群：0	A群：0 B群：2		墳丘墓
2～9区			C群：0 D群：0 E群：1	C群：0 D群：6 E群：1 F群：35 G群：21	A群：3 B群：2	A群：7 B群：2 C群：7 D群：0 E群：6
	B群：0		F群：1	H群：2	C群：0	F群：3 G群：1
小真石清水				I群：0 J群：0	D群：0	H群：0 I群：0
合計	0	0	2	67	5	26

青は床面積が44㎡、赤は29㎡、緑は24㎡を超える竪穴住居跡を含む住居群。

(3) 松尾頭地区の大型竪穴住居跡、大型掘立柱建物跡

- ・床面積が24㎡以上のやや大型の竪穴住居跡は後期中葉、29㎡以上の大型竪穴住居跡は後期後葉、44㎡以上の超大型竪穴住居跡は終末期後半以降に分布。
- ・大型竪穴住居跡が分布する期間は1型式程度の比較的短期間のものが多い。型式以上にわたって大型竪穴住居跡が分布する住居群は後期後葉のE、F群。
- ・F群の付近には鍛冶関連遺構(SI39)、大型掘立柱建物跡(SB41)が分布。
- ・後期後葉のF、G群では、鉄器の出土数が多い。
- ・終末期後半に超大型竪穴住居跡が2棟分布。これと同時期の墳丘墓が1区に分布しており、関連性が窺える。

(4) 松尾頭地区の土地利用状況

- ・後期中葉で3区北側の南斜面において、大規模な段の造成が行われ、斜面でも積極的に利用。一方、他の南斜面は遺構が希薄なこと、露岩が認められること、傾斜が急なことから、利用が低調。
- ・3区北側の南斜面から8区にかけて後期中葉の溝状遺構(SD30、33、52、64)がCからE群にかけて分布。これらは区画溝、道の可能性がある。
- ・遺構の多くは、丘陵の傾斜変換点付近につくられ、丘陵頂部を取り囲むようにして分布。頂部には遺構が希薄であり、広場的な空地であったと考えられる。この状

況は、妻木山地区の状況と共通する。

- ・住居群の間は、丘陵頂部のような空閑地、後期後葉のE、F群の間のように掘建柱建物群、D群の斜面下方のように段状遺構が分布する。

(5) 窪地 (表3)

- ・窪地は住居群の最終段階、松尾頭地区では終末期の竪穴住居跡である可能性が高い。
- ・北東側の丘陵上に窪地を4基確認したことから、終末期の竪穴住居跡がさらに分布すると考えられる。また、このうち窪地4は窪みの範囲が広く大型竪穴住居跡の可能性が考えられ、さらに終末期の大型竪穴住居跡が分布する可能性がある。
- ・窪地の堆積は床面から検出面まで黒色土が堆積しており、妻木晩田遺跡で調査した4遺構とも同じ堆積状況を示し、廃絶後、同じような過程を経て堆積したものと考えられる。

表3 妻木晩田遺跡窪地調査状況

	時期	窪地の範囲	規模
MGS1102	- 2	10.4m	54 m ²
MGS1115	- 2	12m	29 m ²
MGS1119	- 2	12m	55 m ²
DHS108	- 3	6.4m	23.8 m ²

(4) まとめ

- ・後期中葉に3区北側の南斜面で大規模な段がつくられる。このような大規模な造成が行われる箇所は他に認められない。
- ・またこの段には、区画溝や道の可能性のある溝状遺構 (SD30、33、52、64) が分布する。この溝状遺構はCからE群にかけて分布し、さらに北東側の丘陵へと続く可能性がある。
- ・後期後葉には床面積が29 m²以上の大型竪穴住居跡がみられるようになり、E、F群では終末期まで継続して分布する。
- ・このうちF群は鉄器の出土数が多く、住居群の中には鍛冶関連遺構が含まれ、付近には大型掘建柱建物跡が分布する。
- ・終末期後半には床面積が50 m²以上の超大型竪穴住居跡が分布する。1区にほぼ同じ時期の墳丘墓が分布することから、その関連性が窺われる。

自然科学分析について

(1) 炭化種実同定、花粉分析、プラントオパール分析

表4 炭化種実出土数

遺構	イネ	キビ・ヒエ	アワ・ヒエ	マメ類	モモ	ブドウ属	堅果類
SI102	39	0	0	16	5	1	2
SI103	38	0	0	10	4	0	0
SI105	0	0	0	0	0	1	0
SI106	4	0	0	4	0	0	0
SI107	3	0	1	0	5	0	0
SI108	3	0	0	1	1	0	0
SI109	3	0	0	1	5	0	0
SI110	6	0	0	0	1	0	0
SS35	14	0	0	0	2	0	0
SS36	1	1	0	0	0	1	3
SS38	1	0	0	0	0	0	0
SS39	4	0	0	6	5	0	0
SS42	15	0	0	1	2	0	1
妻木山地区	205	13	113	43	78	2	28
洞ノ原地区	20	0	3	0	27	1	0
松尾頭地区	394	6	6	37	253	2	41
合計	750	20	123	119	388	8	75

【生業】

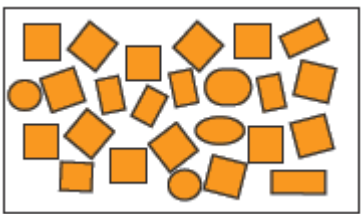
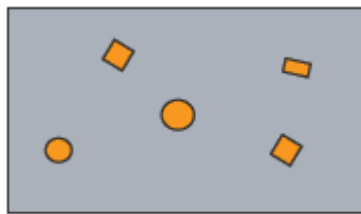
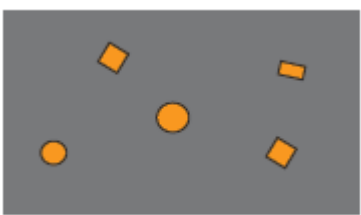
- ・イネ、アワ・キビ・ヒエ等の穀類、マメ類を生産、利用。
- ・モモ、ブドウ属等の果実類、オニグルミ、トチノキ、クリ、イチイガシ等の堅果類が確認。穀類以外も利用。

【自然環境】

- ・アカメガシワ、カラスザンショウ、ヤシャブシ、マツといった先駆植物、キク亜科、タンポポ亜科等、日当たりのよい場所を好む植物を確認。堅穴住居の周辺は草が生える裸地に近い状況だったと考えられる。
- ・先駆植物の他、サクラ属、コナラ属といった落葉広葉樹、スギ等の針葉樹を確認していることから、周辺には適度に伐採が行われていた森があったと考えられる。

(2) 軟X線分析

表5 分析結果一覧

埋土	模式図	調査所見	分析結果
ロームブロック混入土		<ul style="list-style-type: none"> ロームブロックが多量に含まれる。 ブロックの堆積方向が不ぞろい。 人為堆積。 	<ul style="list-style-type: none"> ブロックとの間隙の密度が高い。 ブロックの密度に違いがある。 ブロックの形状が角塊状。 人為堆積。
褐色土		<ul style="list-style-type: none"> ロームブロックが希薄。 ブロックの堆積方向が同じ。 自然堆積。 	<ul style="list-style-type: none"> ブロックの形状が角塊状を呈する人為的なものが含まれない。 自然堆積。
黒褐色土		<ul style="list-style-type: none"> ロームブロックが希薄。 自然堆積。 	<ul style="list-style-type: none"> 土壌化した土が流れ込んできた可能性。 自然堆積。

- ロームブロックが多量に混入する土は人為堆積。
- ロームブロックが希薄な褐色土は自然堆積。
- 黒褐色土は自然堆積。